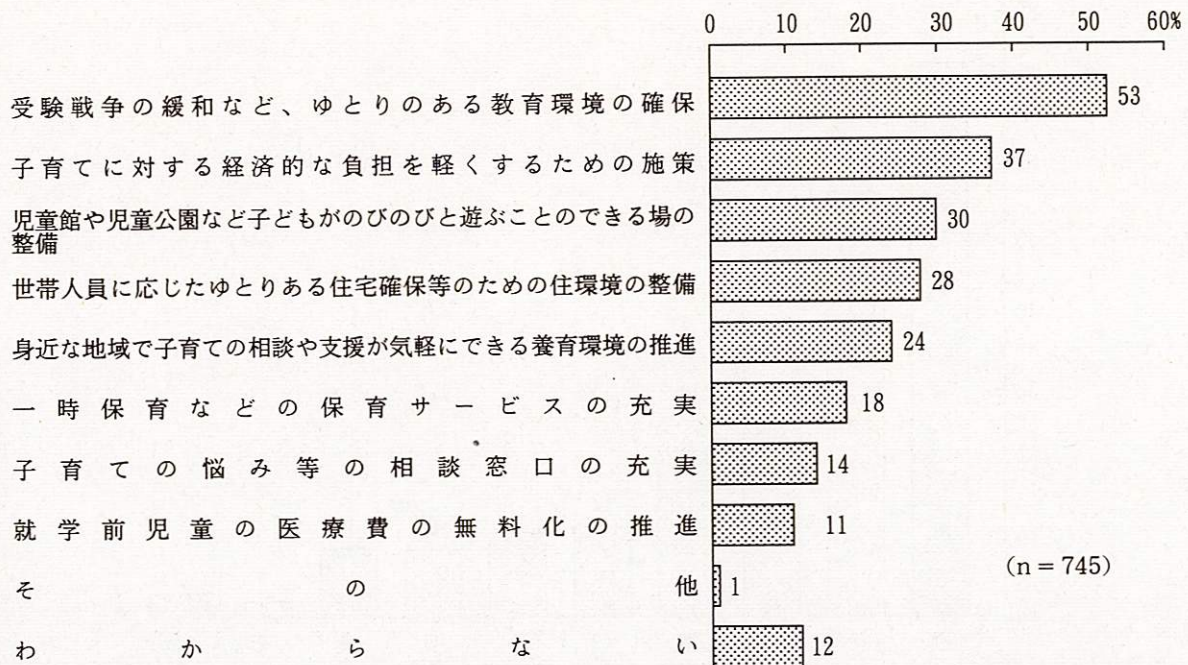


6. 福 祉 社 会

6-1 子どもの健全育成のための社会環境

問11 【回答票】子どもが健やかに生まれ育つための社会環境づくりのためにはどのような施策が必要だと思いますか。この中から主なものを3つまであげてください。

図6-1



子どもが健やかに生まれ育つための社会環境づくりのために必要な施策としては、「受験戦争の緩和など、ゆとりのある教育環境の確保」が最も高く53%と過半数の人が答えている。以下、「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」(37%)、「児童館や児童公園など子どもがのびのびと遊ぶことのできる場の整備」(30%)、「世帯人員に応じたゆとりある住宅確保等のための住環境の整備」(28%)、「身近な地域で子育ての相談や支援が気軽にできる養育環境の推進」(24%)と続いている。

これをライフステージ別にみると、家族形成期においては「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」(52%)で最も高くなっているが、他のライフステージにおいてはいずれも「受験戦争の緩和など、ゆとりのある教育環境の確保」が最も高くなっている。この他で目立ったところでは、家族成長後期が「世帯人員に応じたゆとりある住宅確保等のための住環境の整備」(43%)で比較的其他のライフステージより高くなっている。また、「わからない」を除く回答計をみると、高齢期及び老人世帯がそれぞれ145%、173%であるのに対し、家族成長前期及び家族形成期はそれぞれ260%、247%であり、1人当たり約2.6個、約2.5個の回答とやや多くなっていることがわかる。

表6-1 子どもの健全育成のための社会環境（ライフステージ別）

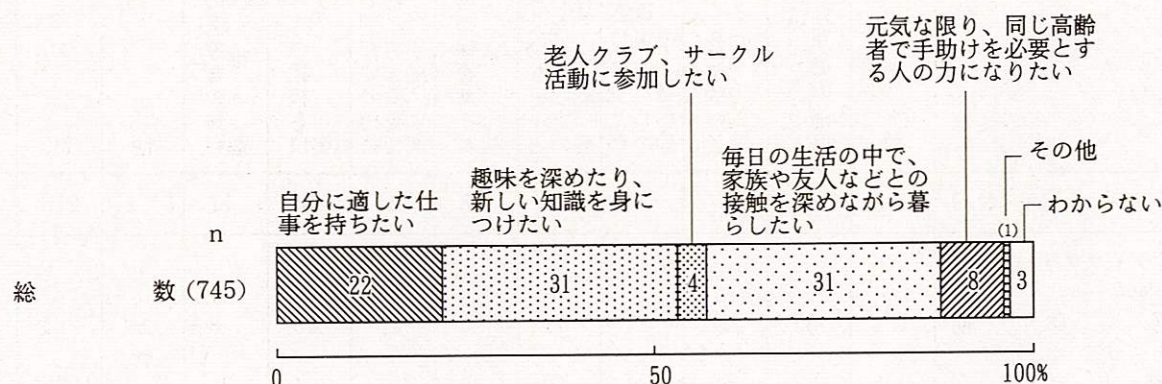
(%)

	総 数	受 験 戦 争 の あ る 教 育 環 境 の 確 保	子 育 て に 対 す る 経 済 的 な 策 負	住 る 環 境 に あ る 人 員 に 対 し た た め の 整 備	世 帯 人 員 の あ る 場 所 の 整 備	児 童 館 や 公 園 な ど の 遊 び 場 の 整 備	一 時 保 育 な ど の 保 育 サ ー ビ ス	環 境 や 支 援 が あ る 地 域 に あ る こ の 推 進	身 近 な 地 域 で 子 育 て の 相 談	子 育 て の 悩 み 等 の 相 談 窓 口	化 学 前 児 童 の 医 療 費 の 無 料	そ の 他	回 答 計	わ か ら な い
【 総 数 】	745	53	37	28	30	18	24	14	11	1	216	12		
【ライフステージ別】														
独 身 期	124	52	41	29	41	19	26	15	8	－	231	7		
家 族 形 成 期	95	51	52	30	42	26	21	4	21	－	247	3		
家 族 成 長 前 期	74	64	49	34	41	10	22	15	22	3	260	－		
家 族 成 長 後 期	68	62	31	43	21	22	37	12	7	2	237	3		
家 族 成 熟 期	215	53	31	26	29	19	28	20	7	1	214	14		
老 齢 期	46	50	33	9	17	7	13	7	9	－	145	24		
老 人 世 帯	57	46	33	21	9	25	16	12	11	－	173	23		
そ の 他	64	44	31	25	19	16	16	13	2	2	168	27		

6-2 老後の生活

問12 【回答票】あなたは、老後をどのように暮らしていきたいと思いますか。この中であなたのお考えに最も近いものを1つだけあげてください。

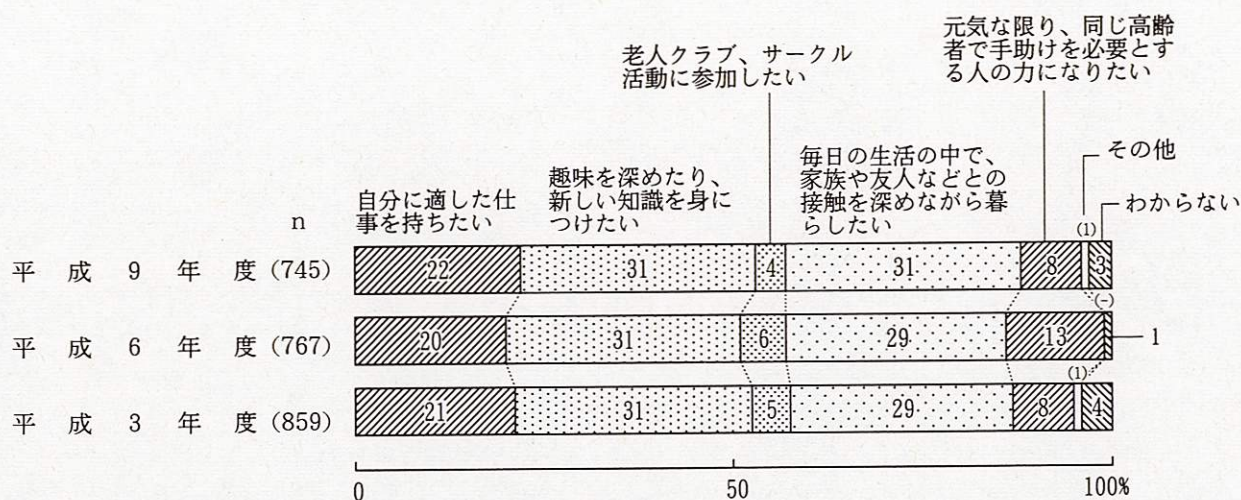
図6-2



老後の暮らし方としては、「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」(31%)と「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」(31%)がそれぞれ3割を占め高くなっている。次いで、「自分に適した仕事を持ちたい」が22%となっている。

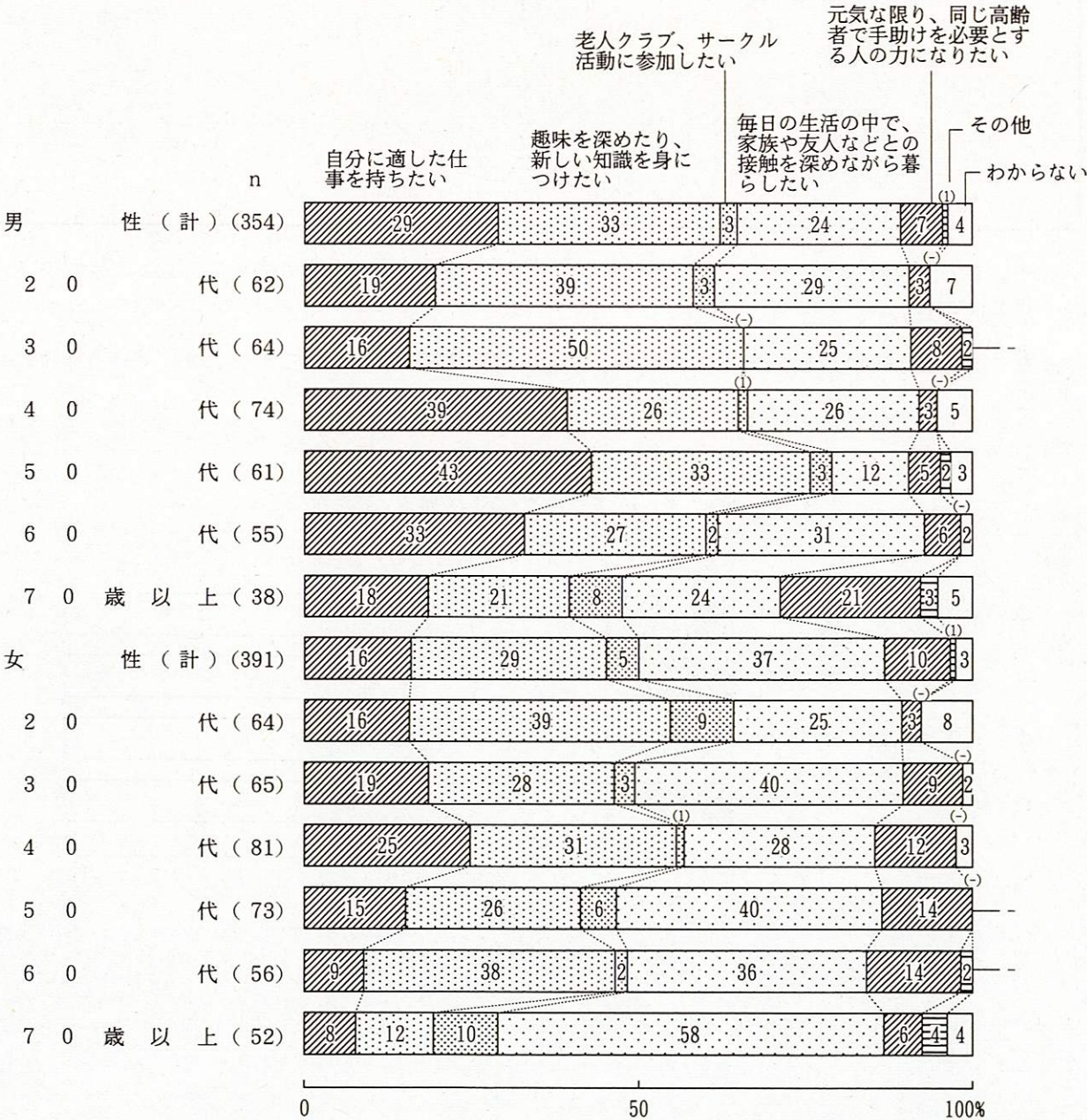
平成6年度の調査と比較すると、大きな変動はみられないが、「自分に適した仕事を持ちたい」と「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」がそれぞれ2ポイント程度高くなっている。

図6-3 老後の生活(時系列)



性・年代別でみると、男性20代及び30代では「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」で、40代から60代では「自分に適した仕事を持ちたい」で、70歳以上になると「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」でそれぞれ最も高くなっており、各年代によりばらつきがみられる。一方、女性では「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」もしくは「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」のどちらかで最も高くなっている。目立ったところでは、女性70歳以上が「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」(58%)で6割近くの回答となっている。

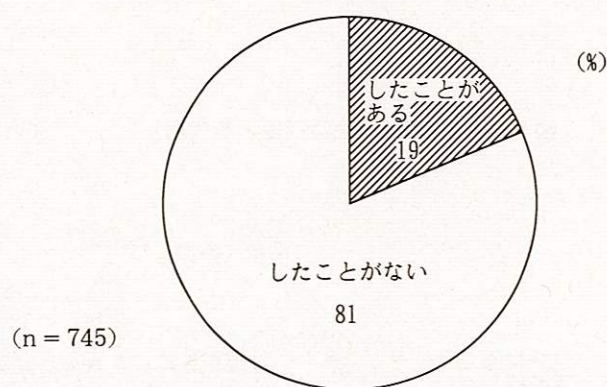
図6-4 老後の生活（性・年代別）



6-3 ボランティア活動の経験

問13 お年寄りや心身に障害のある人々のために、地域でボランティア活動が行われていますが、今までに、あなたはボランティア活動に参加したことがありますか。

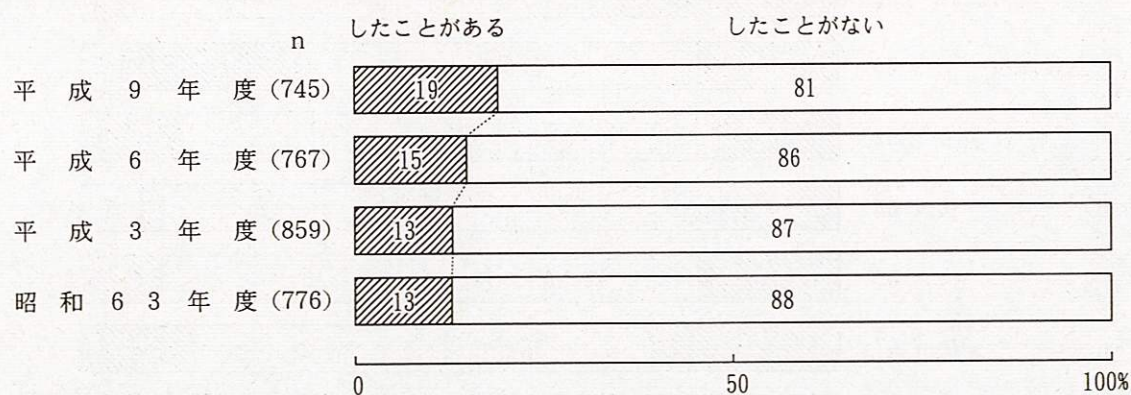
図6-5



ボランティア活動については、「したことがある」人は19%と約2割しかなく、「したことがない」(81%)が大半を占めている。

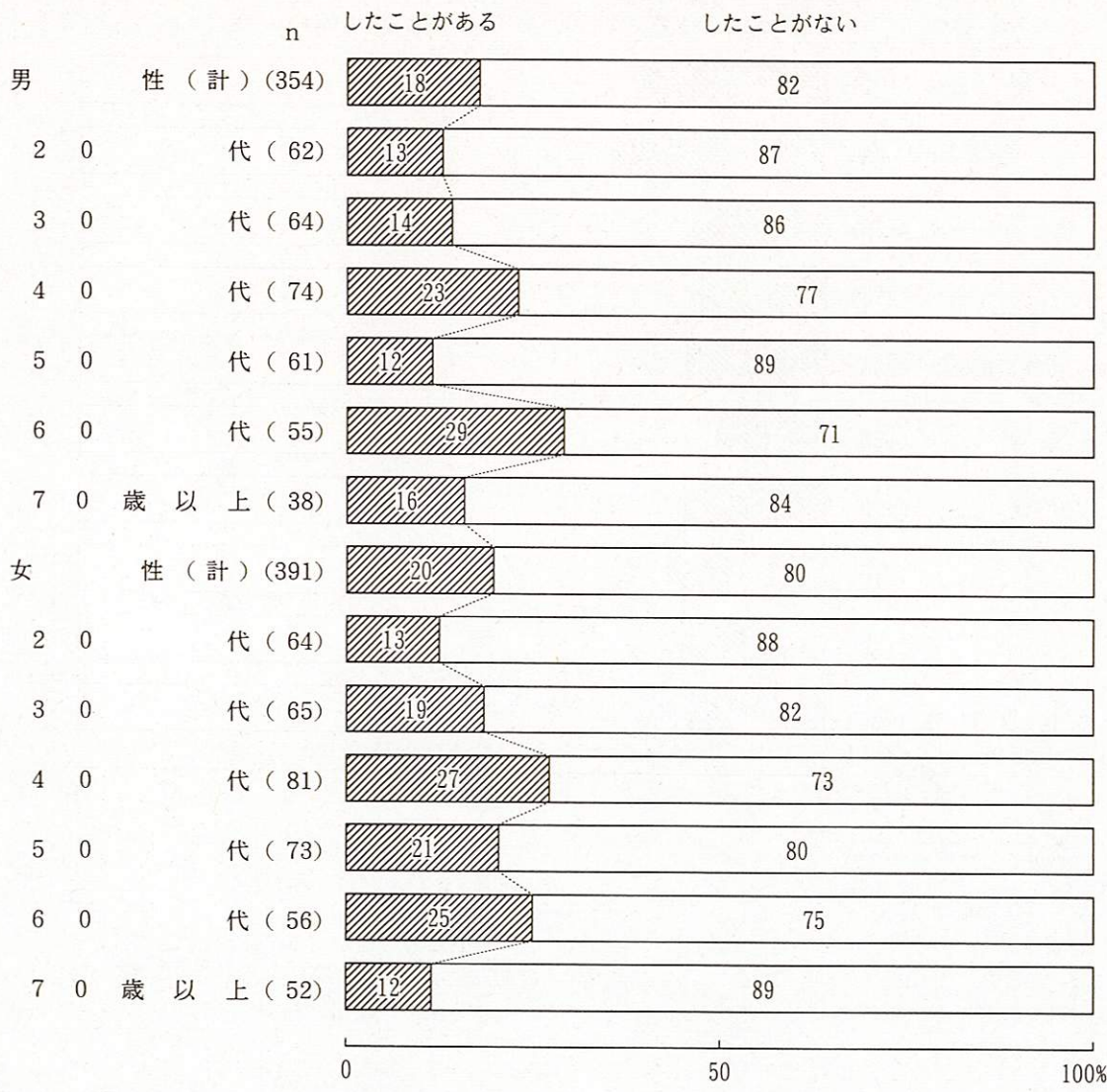
過去の調査と比較すると、「したことがある」人は昭和63年度は13%であったが、平成6年度には15%、今回は19%となっており、徐々にボランティアの経験者は増えている。

図6-6 ボランティア活動の経験（時系列）



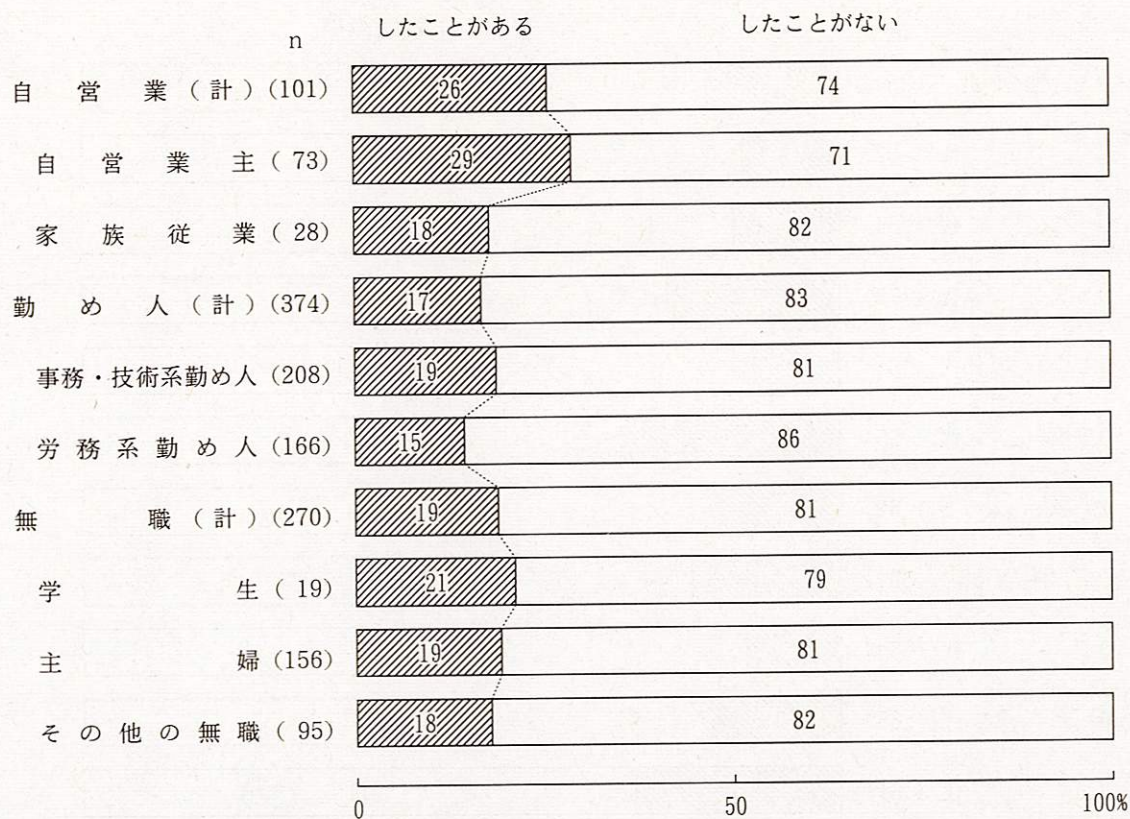
性・年代別でみると、男女とも「したことがある」人は40代及び60代が、他の年代より比較的高くなっている。

図6-7 ボランティア活動の経験（性・年代別）



職業別では、自営業主及び学生で「したことがある」（自営業主29％、学生21％）が2割を超え、他の職業よりボランティア活動の経験者が多い。

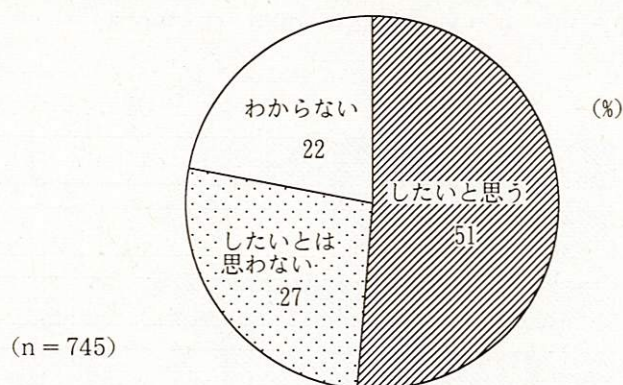
図6-8 ボランティア活動の経験（職業別）



6-4 ボランティア活動の意向

問14 今後、ボランティア活動をしたいと思いますか。

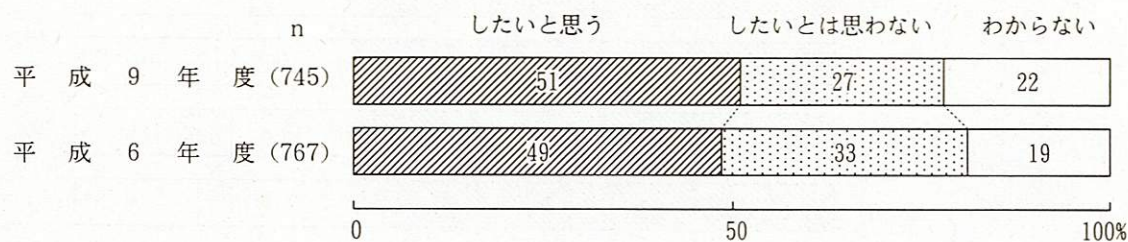
図6-9



今後のボランティア活動については、「したいと思う」人が51%で半数を超えている。

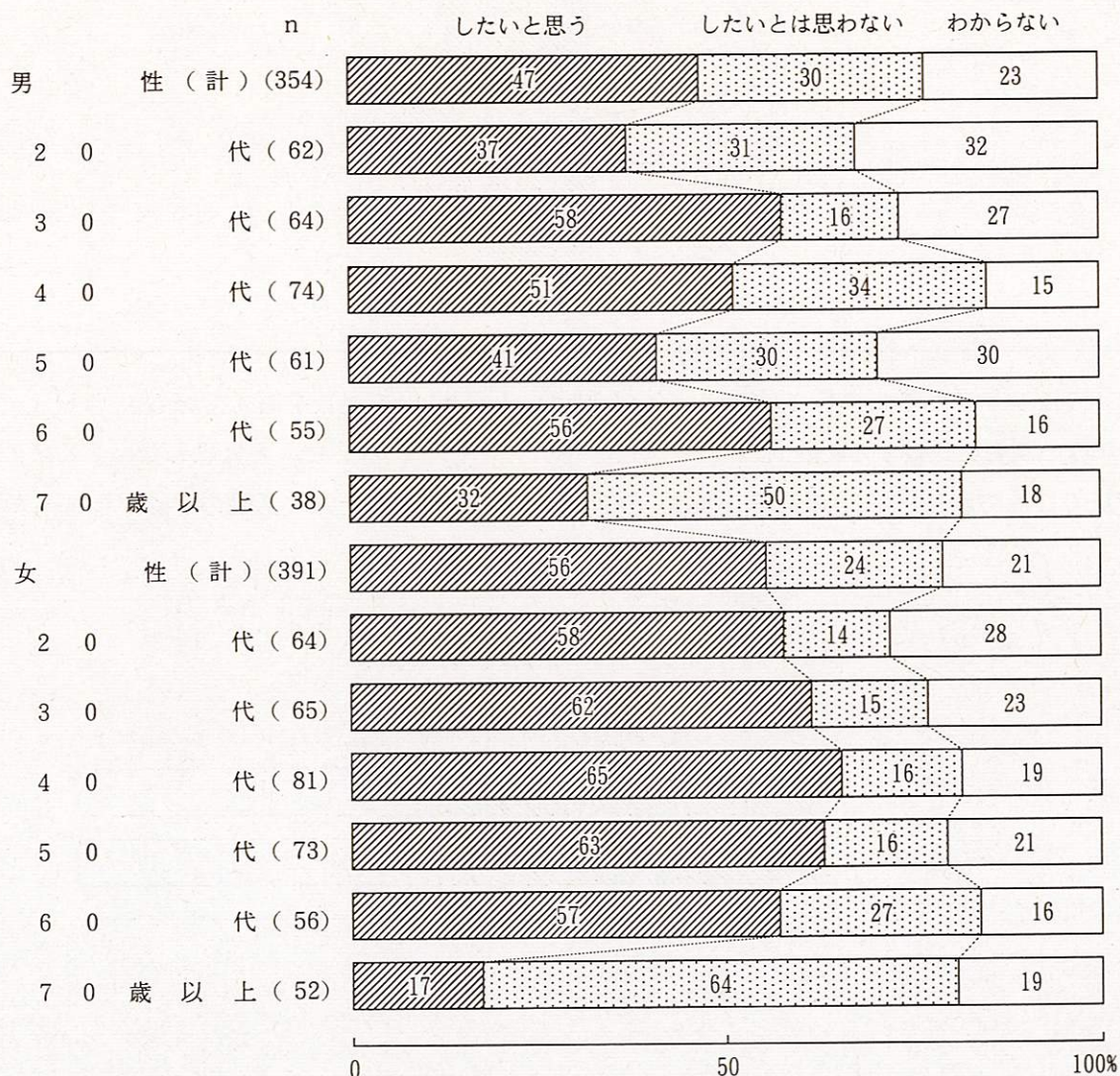
平成6年度の調査と比較すると、「したいと思う」人がやや増えて、「したいとは思わない」人は6ポイント程度低くなっており、問13の経験と同様、意向についてもボランティア活動の意識が年々高まっていることがわかる。

図6-10 ボランティア活動の意向（時系列）



性・年代別でみると、男女とも60代までは「したいと思う」人が「したいとは思わない」人を上回っている。特に女性の30代から50代にかけては6割を超え他の年代より高くなっている。70歳以上になると、男女とも「したいとは思わない」人が「したいと思う」人を上回っており、特に女性70歳以上の場合極端に低くなっている。

図6-11 ボランティア活動の意向（性・年代別）



職業別でみると、その他の無職では「したいとは思わない」(51%)が「したいと思う」(30%)を上回っているが、他の職業では「したいと思う」の方が上回っている。特に学生においては、約8割を占め顕著である。

図6-12 ボランティア活動の意向(職業別)

